

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

「歯科技工学科」は、本校の中で唯一の医療専門課程として令和2年に開設され、国家試験合格はもとより、より高度な知識技術の習得と卒業後即戦力となる実践教育に力を注いできた。その実績に加え、これまで以上に歯科技工企業等と密接に連携したカリキュラム編成を目指すこととする。そこで本校では歯科技工業界における企業・団体との連携を図り、企業等のニーズを十分に反映した実践的最新の知識・技術習得を目的としたカリキュラム作成のために「教育課程編成委員会」を設置し、各委員の意見を十分に生かしながら、業界の動向を踏まえカリキュラムを随時改善していくものとする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、職業実践専門課程の内容を踏まえ、企業等との連携による現実的、かつ、合理的なカリキュラムを検討するため、本校教職員及び業界団体・企業等の外部有識者で構成し設置する。本委員会において、各委員より業界の最新動向や社会のニーズ等に係る意見を集約し、より有効な業界の実践教育を実現するカリキュラムの作成・改善を図る。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年6月1日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
野見山和貴	IVY大分医療総合専門学校 学校長	令和7年4月1日～令和9年3月30日(2年)	—
安部好美	IVY大分医療総合専門学校	令和7年4月1日～令和9年3月30日(2年)	—
堤大輔	大分県歯科技工士育成会 会長	令和7年4月1日～令和9年3月30日(2年)	①
吉岩哲哉	有限会社サンエイデンタル 代表取締役社長	令和7年4月1日～令和9年3月30日(2年)	③
幸康正	株式会社ピーエムラボ ミリングセンター長	令和7年4月1日～令和9年3月30日(2年)	③
松平秀次	株式会社ニューセラデンタル 代表取締役社長	令和7年4月1日～令和9年3月30日(2年)	③
賀末 奈菜子	有限会社サンエイデンタル・卒業生	令和7年4月1日～令和9年3月30日(2年)	③
中島千春	IVY大分医療総合専門学校 教務部長	令和7年4月1日～令和9年3月30日(2年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(6月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年6月14日 16:00～17:30

第2回 令和7年2月19日 16:00～17:30

0

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

総合歯科演習(I・II)において、企業での実習で必要となる基礎的な知識・技術の内容やレベルを企業側とキャリアブレーションを行い、実習前に学内で行う事前指導やOSCEの内容を修正し、円滑に実習へ取り組めるよう対応した。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業連携の主な目的は次の2項目。

- ①、学内教育で習得した知識・技術を臨床現場で統合することを目的とする。歯科医療専門職に求められる適切な行動・態度、責任感を臨床現場体験で修得する。また、企業での実習を通じて職場における人間関係の重要性を理解する。
- ②コンピュータが使える歯科医療技術者として活躍するために、コンピュータに関する基礎的な知識と利用法を理解し、現在のデジタル医療の現状や発展性、CAD/CAM理論、構成、を教授しICTリテラシーが向上することで医療機器類の取り扱い方法・技術、特に歯科用CAD/CAM装置を利用した歯科補綴物製作の基礎を修得し、臨床レベルでのCAD/CAM技術の修得を目指す。

上記2項目を実現するため、連携企業とのインターンシップ、実務者による教育を実施し、歯科技工士としての資質を育成することを基本方針とする。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

医療ICT(講義): 15時間(1単位)

コンピュータが使える歯科医療技術者として活躍するために、コンピュータに関する基礎的な知識と利用法を理解する。現在のデジタル医療の現状や発展性と、CAD/CAM理論、構成、を教授しICTリテラシーが向上することで医療機器類の取り扱い方法・技術の基礎を修得する。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
総合歯科演習(Ⅰ)	3. 【校外】企業内実習(4に該当するものを除く。)	歯科技工士国家試験(学説試験)の出題頻度・傾向と、モデルコアカリキュラムや国家試験出題基準に照らし修得する。	会社ピーエムラボ、有限会社サンエ
総合歯科演習(Ⅱ)	3. 【校外】企業内実習(4に該当するものを除く。)	歯科技工士国家試験(学説試験)の出題頻度・傾向と、モデルコアカリキュラムや国家試験出題基準に照らし修得する。	株式会社ピーエムラボ、有限会社+
医療ICT	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	天然歯が持つ形態、表面性状等、リアリティーを追求した技術の修得。歯科技工士国家試験(実地試験)の出題頻度・傾向と、全国歯科技工士教育協議会スタンダードモデルや国家試験出題基準に照らし修得する。	株式会社ピーエムラボ
医療ICT(演習)	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	歯科技工士国家試験(学説試験)の出題頻度・傾向と、モデルコアカリキュラムや国家試験出題基準に照らし修得する。	株式会社ピーエムラボ

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係	
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 IVY大分医療総合専門学校 研修規程に基づき、全教職員が本校の基本理念及び教育目標を理解し、自己の役割を全うすることによって、本校の発展に積極的に寄与すると共に、専門分野の知識及び、広い視野と良識ある人格を養い、社会に貢献できる実力のある人材育成のための能力向上を目的とする。研修を実施するに当たっては、本校の基本理念を十分に認識し、業務遂行に必要な知識の向上、技能習得による能力の向上を図るものとし、優れた指導力を有する教職員を養成する。	
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 IVY大分医療総合専門学校 研修規程に基づき、全教職員が本校の基本理念及び教育目標を理解し、自己の役割を全うすることによって、本校の発展に積極的に寄与すると共に、専門分野の知識及び、広い視野と良識ある人格を養い、社会に貢献できる実力のある人材育成のための能力向上を目的とする。研修を実施するに当たっては、本校の基本理念を十分に認識し、業務遂行に必要な知識の向上、技能習得による能力の向上を図るものとし、優れた指導力を有する教職員を養成する。	
(2)研修等の実績	
①専攻分野における実務に関する研修等	
研修名: 初心者のための総義歯ベーシックセミナー	連携企業等: (株)ジーシー
期間: 2024/4/7	対象: IVY大分医療総合専門学校教員
内容 総義歯・解剖学的基礎知識、デモンストレーション・演習	
研修名: 全国歯科技工士教育協議会実技Ⅱ	連携企業等: (株)松風
期間: 2024/8/27	対象: IVY大分医療総合専門学校教員
内容 歯科技工士学校養成所の教職員を対象とし、最新のデジタル器材の紹介	
研修名: Apotool&Box活用の極意	連携企業等: (株)stransa
期間: 2025/2/26	対象: IVY大分医療総合専門学校教員
内容 歯科技工士学校養成所の教職員を対象とし、最新のデジタル器材の紹介	
②指導力の修得・向上のための研修等	
研修名: 全国歯科技工士教育協議会研修専任教員会Ⅰ	連携企業等: (一社)全国歯科技工士教育協議会
期間: 2024/8/6～8/7	対象: IVY大分医療総合専門学校教員
内容 カリキュラムプランニング、客観試験問題製作法	
研修名: 実践行動学Webセミナー	連携企業等: (一社)実践行動学研究所
期間: 2025/2/2	対象: IVY大分医療総合専門学校教員
内容 モチベーションアップのための土台づくり向上に効果的な動機付け教育プログラム紹介	
研修名: IVY特別講演会	連携企業等: 東芝ぶれいブルーパス東京
期間: 2025/2/2	対象: IVY大分医療総合専門学校教員、学生
内容 大野均氏「弱小チームがワールドカップに勝つまで」	

(3) 研修等の計画		
① 専攻分野における実務に関する研修等		
研修名: AILセプト管理研修	連携企業等: 一般社団法人日本レセプト学会	
期間: 2025/4/14	対象: IVY大分医療総合専門学校教員	
内容: AILセプト管理による可能性について、分析方法、収益向上に関する提案などの概略		
研修名: ビジネスマナー研修	連携企業等: 医療実務研究会	
期間: 2025/5/16	対象: IVY大分医療総合専門学校教員、学生	
内容: 名刺交換やお辞儀の仕方など社会人として必要なマナー		
研修名: S-WAVEオンラインセミナー	連携企業等: 株式会社松風	
期間: 2025/6/30	対象: IVY大分医療総合専門学校教員	
内容: 超高透光性ジルコニアマテリアルを学ぶ		
② 指導力の修得・向上のための研修等		
研修名: 全技協研修専任教員会 I	連携企業等: (一社)全国歯科技工士教育協議会	
期間: 2025/8/未定	対象: IVY大分医療総合専門学校教職員	
内容: カリキュラムプランニング、客観試験問題製作法		
研修名: IVY特別講演会	連携企業等:	
期間: 2026/1/18	対象: IVY大分医療総合専門学校教職員、学生	
内容: 七転び八起きのメンタルのつくり方		
研修名: 成田デンタルグループ合同社員研修会	連携企業等: 成田デンタルグループ	
期間: 2026/3/下旬	対象: IVY大分医療総合専門学校教職員	
内容: 社員マネージメント、ビジネスマナー、経営学		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価委員会規定により次のように規定している。
 学校関係者評価委員会の評価結果を教育活動その他の学校運営の改善等に活かすことを目的とする。
 委員会は、「職業実践専門課程」認定においての実践的な教育活動を、企業等から参画委員の意見によって評価し、公表する。委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。
 委員の選任は、選任は学内で協議の上、理事長が委嘱し、委員の任期は2年とする。
 選任された委員は、自分に課せられた使命と責任を強く自覚し、委員会の業務に精励しなければならない。
 委員会における関係者評価方法は、委員会の開催による意見交換、および委員会メンバーとの意見交換のいずれかとする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1) 教育理念・目標
(2) 学校運営	(2) 学校運営
(3) 教育活動	(3) 教育活動
(4) 学修成果	(4) 学修成果
(5) 学生支援	(5) 学生支援
(6) 教育環境	(6) 教育環境
(7) 学生の受入れ募集	(7) 学生の受入れ募集
(8) 財務	(8) 財務
(9) 法令等の遵守	(9) 法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	(10) 社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	(11) 国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

(1) 教育理念・目標: 教員・学生共に、しっかりと教育理念が浸透しているように感じる。教育理念・目的等学校内、地域社会にも明確に示していると思う。教育目標だけではなく生活信条も生徒に浸透していることを感じる。等の評価→IVY生活信条や人間力教育のより一層の強化を行っている。(2) 学校運営: 風通しの良い意見交換のできる今の状態をより向上するように取り組んで欲しいの意見→学校評価委員、や企業が適時視察できるように改善した。(3) 教育活動: 国家試験だけ取得できれば良いという考えではなく、実戦で使える教育ができています。や、教育内容は適切に行われていると思う。→この評価に安住することなく、人間力教育や引き続き国家試験全員合格を目指す。(4) 学修成果: 知識・技術力のみならず幅広い見識を学んでいる。との評価→教育の強化・継続を行う。(5) 学生支援: 進路指導が丁寧で的確に行なわれている。積極的に行われていると思う。の評価→支援の継続強化を行う。(6) 教育環境: 産学が連携することにより、いち早く現場に出て学ぶことができる環境は素晴らしい。教育環境は十分と思われる。教育環境は整備されていると思う。等の意見→より以上、産学連携教育の充実を図る。(7) 学生の受入れ募集: 過大広告することなく、ありのままの学校を見せることで生徒に魅力を伝えることができていると思う。入学希望者増に向けてより強化が必要。→入学希望者増加に向けて、より広報活動の強化を行う。(9) 法令等の遵守: 問題なく適切に行われている。教員の労働環境もしっかりしている環境。→引き続き遵守。また学生に対しても社会に出ても不可欠であり、コンプライアンス教育の強化を行う。(10) 社会貢献・地域貢献: 積極的に行われていると思う。清掃ボランティア活動など、地域貢献の取組みは素晴らしいと思う。等の意見→可能な範囲での社会貢献・ボランティア活動を積極的に推進し参加支援を行う。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
堤 大輔	株式会社 ピーエムラボ 代表取締役社長	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	企業委員
吉岩 哲哉	有限会社 サンエイデンタル 代表取締役社長	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	企業委員
重光 直好	医療法人 雄飛会 事務長	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	企業委員
榎谷 賢治	医療法人 博光会	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	企業委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他()

URL: https://www.ivy.ac.jp/?page_id=8295

公表時期: 令和7年6月1日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

当校に対して連携を行う企業、関係者に対し、当校に対する深い理解を得てもらうことで連携を円滑にすることができ、それにより連携を進め、活動の充実や教育内容の向上を図る必要がある。

そのため、当校は連携する企業に対し、教育目標や計画などの方針をはじめ、教育対象となる生徒・カリキュラム、教育環

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	① 学校の概要、教育理念及び特色
(2) 各学科等の教育	② 教育課程
(3) 教職員	③ 教職員
(4) キャリア教育・実践的職業教育	④ キャリア教育・実践的職業教育
(5) 様々な教育活動・教育環境	⑤ 様々な教育活動・教育環境
(6) 学生の生活支援	⑥ 進路指導及び生活指導
(7) 学生納付金・修学支援	⑦ 学生納付金・修学支援
(8) 学校の財務	⑧ 学校の財務
(9) 学校評価	⑨ 学校自己評価結果の公表について
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: https://www.ivy.ac.jp/?page_id=8295

公表時期: 令和7年6月1日